

活動報告：ぶんぶんひろば

1 活動のねらい

ぶんぶんひろばの活動は平成22年のセンター開設以来9年が経過した。当初設定したぶんぶんひろばの活動のねらいは3つである。1つ目は、就学前の子どもとその家族への子育て支援の場の提供、2つ目は、本学で学ぶ学生の教育の場としての活用、3つ目は研究活動である。近年、本学は「対人援助のプロを育てる」というコンセプトのもとに日々の教育を行っている。このセンターが位置する広島 長束キャンパスには、大学の学芸学部(2学科)、大学院教育学研究科及び短期大学の3学科があり、学生の多くは教育職、保育職、栄養士等の対人援助職を目指しており、2つめのねらいを達成するために、本センターは重要な施設となっている。また地域貢献も本学教育の特色の1つである。週2回子育て中の家族にひろばを開放しており、子育て家族の姿を、キャンパス内で目の当りにすることは、学生たちにとってこの上なく良い体験となっている。それぞれの学科の目標を達成するためにこのセンターの存在が役立っているといえる。ねらいの3つ目は研究であるが、なかでも子育て支援に関する研究は昨今の社会状況から必要とされ、急がれるものである。各学科から選出された教員はそれぞれの研究課題を持ちより、この領域の研究が進むよう協働して利組んでいる。

2 活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

30年度の実施回数は68回であった。参加の状況を表1に示す。のべの参加人数は2028人であり、平均参加組数は13.7組であった。通常開催のぶんぶんひろばとは別に、音楽会や離乳食の講習会、公開講座などがあり、それらを合計すると2704人の参加となる。参加者の言葉によると、転勤直後で知り合いがいなかったときの母親同士の情報交換や、夏の水遊び、発達に合わせた玩具の体験などが好評であっ

た。また、今年度新しい試みとして、「しつけに悩むとき」や「少し気になること」などに対応した書籍をそろえ、貸出を実施した。昨年と変わらず、毎日開催してほしい、一回の開催時間を長くしてほしい、大学が休業中も開催してほしい等の要望があった。

(2) 教育における活用

週2回のひろば以外に、授業での使用は次のようであった。前期には演奏活動で6回(音楽学科)、造形表現で2回(子ども学科)、後期には、演奏活動で6回(音楽学科)、保育実践演習で2回(子ども学科)、栄養指導各論実習で2回(短大:食物栄養学科)栄養指導各論で1回(食物栄養学科専攻科)、幼児英語指導法で2回(保育学科)の利用があった。また、総合子ども学Ⅱ(子ども学科)では、子育て支援の場所として、子育て支援のための遊具や設備面の配慮を学び、「初めて体験した」「有意義だった」との感想が得られた。保育学科では「赤ちゃんふれあい体験」(1年生)を実施した。また、看護学部から「看護研究セミナーⅠ」の研究テーマ探求のため、ひろば体験の希望があり、3名(3年生)が計4回の実習を実施した。

短大保育学科学生の「保育技術サークル」は手遊びと絵本の読み聞かせ活動を火曜日の昼休みに継続的に実施した。

(3) 研究への活用

広島文化学園大学は文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に選定され(平成28年度選定)、研究が続いている。テーマは「対人援助システムの構築と効果に関する検討」であり、30年度には5年計画3年目の研究が進められた。1年目のニーズ調査の実施、2年目の「子育てカフェ」に続き、3年目は「ぶんぶん親子教室(子育てを楽にするほめかた講座)」を実施した。これらの計画を次年度も充実させる予定である。最終的には子育てをスムーズに進めるための、子育て家庭への支援プログラム作りや支援者養成のプログラム作りを目指している。(田頭 伸子)

表1 平成30年度実施回数と利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施回数	6	6	9	8	2	3	9	8	5	7	5	68
利用組数	62	62	128	144	16	33	131	124	69	82	80	931
平均利用組数	10.3	10.3	14.2	18	8	11	18.6	15.5	13.8	11.7	16	13.7
利用者数	子ども	67	66	136	185	19	36	149	145	81	98	1085
	大人	62	64	130	147	18	33	133	125	69	82	943
	合計(人)	129	130	266	332	37	69	282	270	150	180	2028